

事務事業名		送水・配水施設及び市管理分給水装置維持管理事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 総合戦略登載事業	
政策体系	政策名	潤いに満ちた快適な都市環境の創造		事業期間	
	施策名	良好な生活空間の創造			
	基本事業名	上水道・簡易水道の整備		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 昭和29 年度～)	
根拠法令		水道法		☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
所 属	部課名	水道事業所		予算科目 会計 款 項 目 事業 水道 01 01 02 事務事業区分 A 政策事業 B 施設整備 C 施設管理 D 補助金等 E 一般(A～D以外)	
	課長名	千葉 洋一			
	係 名	工務給水係	電話 0192-27-3111		
	担当者	佐藤 悦夫	内線 176		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 送水管、配水池、配水管その他浄水の配水に係る施設及び市管理分給水装置の維持管理を行う。					
主な事業内容 ①配水池の維持管理 ②配給水管の漏水調査・漏水修理 ③漏水修理に伴う舗装復旧 ④給水装置における残留塩素測定 ⑤水道メーター不良による交換作業 事業費は、委託料、修繕費、動力費等である。					
全体計画(※期間限定複数年度のみ) 総投入量 (千円)					
国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0					
正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0					

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

前年度実績(前年度に行った主な活動)

配水池の維持管理
配水管、給水装置の漏水調査、漏水修理
破損等事故による修理

今年度計画(今年度に計画している主な活動)

前年に同じ

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

送水施設、配水施設、市管理分給水装置

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

配水・給水機能が維持される。

④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)

安全な水道水が安定して供給される。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)

名称	単位
ア 漏水修理件数	件
イ 漏水調査延長数(路面音聴調査)	m
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)

名称	単位
カ 給水件数	件
キ 送配水管延長	m
ク	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)

名称	単位
サ 日無効水量(漏水等により使用されなかった水量)	m ³ /日
シ 配水停止回数(配水池からの水の供給ができなくなる回数)	回
ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

			年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(目標)	31年度(目標)	32年度(目標)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
			都道府県支出金	千 円						
			地方債	千 円						
			その他	千 円						
			一般財源	千 円	53,107	54,460	56,191	60,000	60,000	60,000
			事業費計 (A)	千 円	53,107	54,460	56,191	60,000	60,000	60,000
	人件費	正規職員従事人数	人	5	5	5	5	5	5	
		延べ業務時間	時 間	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	
		人件費計 (B)	千 円	6,800	6,800	6,800	6,800	6,800	6,800	
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	59,907	61,260	62,991	66,800	66,800	66,800	
⑤活動指標		ア	件	88	74	70	80	80	80	
		イ	m	95,000	95,000	95,000	95,000	95,000	95,000	
		ウ								
⑥対象指標		カ	件	13,340	13,341	13,209	13,020	12,980	12,950	
		キ	m	271,482	273,249	274,430	279,710	281,810	282,810	
		ク								
⑦成果指標		サ	m³／日	1,981	1,456	1,436	1,665	1,543	1,426	
		シ	回	0	0	0	0	0	0	
		ス								

事務事業ID	0310	事務事業名	送水・配水施設及び市管理分給水装置維持管理事業
		#	6
(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 昭和29年4月、上水道の供用開始による。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 未給水区域の解消等を目的とした施設整備事業により送配水施設が増加し、また、一般住宅の再建や共同住宅等の建設増に伴う給水装置の設置が増加している。 漏水修理件数は震災直後と比べ減少したが、道路の嵩上げ等により漏水が発見しにくくなっている。被災区域の配水管布設工事が進み、無効水量が減少傾向にある。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 水道使用者から、漏水防止が求められている。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	施設の適切な管理により、水道水の安定供給が図られ、その結果、快適な都市環境の維持、向上につながる。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	水道事業は地方公営企業であり、施設や水道管の維持管理は設置者である市が行う必要がある。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	維持管理事業であり対象、意図は適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】	職員による施設や配給水管路の巡回強化により、一層の漏水防止が可能である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】	安全で安定した水道水の供給ができなくなる。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	給・配水管の漏水調査、漏水修理に係る費用であり、費用の削減は困難である。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	現状ではこれ以上の人件費の削減は難しい。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	水道施設の維持管理を行うことにより、安全な水が安定して供給でき、使用者が使用量に応じ水道料金で負担していることから適正である。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性		(2) 改革・改善による期待成果 左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																		
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止																				
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 既存施設の老朽化が進行していることから、引き続き、施設や給・配水管の破損事故防止のため、計画的で効率的な整備、更新が必要である。		<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上	●		維持		×	低下	×	×
	コスト																			
	削減	維持	増加																	
成果	向上	●																		
	維持		×																	
	低下	×	×																	

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	安全な水道水の安定的供給のためには、必要不可欠な事業であり、計画的な事業推進が必要である。